



図書館 めくるくん通信

図書館 ☎ 69・3706

図書館のこぼれ話 ～分室の入替～

図書館は本館の他に7カ所の分室があります。分室は公民館や市民センターの中にあり、本館と同じように一般、児童向けの本が並んでいます。

分室の本は毎月入れ替えをしています。皆さんに色々な本を手にとっていただけるよう、今日も車に夢と本を載せて市内を走ります。



図書館に入った本

毎月たくさんの本やCDが入るよ！
一部を紹介するね！



『愛知すてきな旅カフェ』

オフィス ヒライ／著
メイツ出版

青い空と爽やかな風がごちそうの、愛知のすてきな旅カフェを紹介します。



『夜ごと死の匂いが』

西村 京太郎／著 カドカワ
『ゲーム・メーカー』
池上 司／著 カドカワ



『50歳からの暮らしの整え方』

後藤 由紀子／著 大和書房
『60代シンプル・シックな暮らし方』
石黒 智子／著 SBクリエイティブ



『いちばんやさしい60代からの ウィンドウズ10』

増田 由紀／著 日経 BP 社
『今すぐ使える
かんたんインターネット&メール』
リブワークス／著 技術評論社



『黄金の市 剣客大名柳生俊平 9』

麻倉 一矢／著

当館製作。デジ図書は、本を読むのが困難な方のための録音図書です。

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。

船釣りでギマを採集

■ギマをスカウト

実は竹島水族館は「たけすい丸」という船を持っており、先日こいつを走らせて三河大島のあたりに釣り採集に行ってきました。狙いは「ギマ」で、蒲郡のスーパ―には良く並ぶおなじみの魚です。先月はサバを釣ったことを紹介しましたが今回はギマです。

■ギマの特徴
ギマは大きくなく、りではフグの一族で、背中とお腹に丈夫なトゲが生えているのが特徴の一つです。漢字で「銀馬」と書くらしく、ややとぼけた基本的な人を少しバカにしたような馬顔をしており、実際に向かい合って冷静に見つめ合っていると少し腹が立つてくる。しかし

煮て食べるとおいしいし、刺身でも食べられます。フグの仲間ですが毒はない。その代わり、捕まえると体からヌタヌタの粘液を大量に分泌し、手に付くと取れにくく、これまたやや腹が立ちます。擬麻という名前の由来もあるようで、これはギマの体の皮の触り心地からきたようです。

■展示デビュー

三河大島のやや沖で竿を出すと、立派なサイズが断続的に釣れました。おちよぼ口で針をくわえて元気にするんだ！と反抗的に激しく暴れるギマを見ると、おなじみのおいしい魚だけあって、これは水槽に入らずに晩ご飯で食べるのいいのではありませんか、それがギマへの礼儀ではないだろうか、お

読む



水族館



館長 小林龍二

竹島水族館
☎ 68・2059